

バストス週報

第三百十五号
昭和卅一年
四月十二日
発行

DIRETOR
KOITI MORI
REDATOR
SHION ODA

RUA PRES.
VARGAS 188
C. P. 112

BASTOS
C. P.

ASSINATURA
ANNUAL
一ヶ月
80\$00

農業はすべからず 積極的に

- 1 養鶏家にフクイン
- 2 雑作青田貸し
- 3 ポマレル育成強化
- 4 トラットールの購入

養鶏が行き詰った、と昨年以來養鶏家に悲鳴をあかせるような材料が多く、小の養鶏家を落膽させたとよである。日くミーリヨ高、日く産卵低減、これではやっつけがないと嘆くのも無理はない。ミーリヨ産地のハラナ州は霜害の為めミーリヨ植付がふえた、養鶏地帯のバストスでもミーリヨ高に對處する為め奮起して昨年は大分ミーリヨをランタレたのを生産過剰り原則通り、三百針台のミーリヨは二百針台を割って、昨今百七八十針となり、農家が放し気味になると百五六十針以下になると言われる。

養鶏家の嘆きは之れで解消されたわけだが、卵の相場は中々掛引があるのでもミーリヨの様なわけにはいかぬ、とまれ考ねはならぬ事は重要飼料の値上りに備えて、養鶏家は経営の面にもう一段と開眼しなければならぬのではなからうか。

養鶏一本、養蚕一本で行く、単業の危険は、はなはだ警告される処だが、多角農といつても少資本或は魚投資に近い情態で、まねことの多角をやると、徒らに労力の分散に終るのみで、得る処少くビンボーヒマナシを体験するはかりだ。

養鶏もやり、ホシカンも種え、ミーリヨも作り、カネも少々と欲張ると一炊張るのにはない、多角農の一方式である一寸金がかゝる、金をかけまいとするところにかに無理を生ずる、かける金のある人は心配ないが、かけたくも資金をいかにせんと、いう人も中にはある、切角計画を掛てながら、道人で農業が張がたき、旧態依然たる小農経営にあけくれして、いのが、現在バストス農業者の一般では、ないかと思われ、フシがある、農業では儲らん、バストスで儲かりぬというあ

Alfaitonia Imperial



わがもと伯國代理店

聖市パウリスタ製菓会社
C.P. 三六五六

日本の「わかもと」のよききかけ

栄養園エレモテシウム、アツシエビー菌と
アスヘルゲルス菌、薬用酵母の合成成分が天
然活性の必態で薬とマ、こいるからです

僕健康は

「長命は胃腸細胞の
根本強化から」

WAKAMOTO



きりめが、引いては或はこじれりと退植
の原因となり相である、希望に輝いて農
事に専心して居る人から、退植者が出るこ
とは稀れであらう。

農業は、オベからく積極的だれ
引込み農業でとうするが、條理整然たる
計画をたてて自家の農業を積極化すべき
ではなからうか、計画が教理的に整って
居れば、その農家に経済援助のあること
は決の語でも判る。

一の養鶏家に福音 以下銀行融資

の御紹介をして御参考に供したい、この
話の出しはパンコドスラジルのアパレア
ドールをして、Dr.ホルス、スキネル氏が
バストス市議西敏氏に話したものの再録

であるがその要点を示すと、フラジール銀行（ツパン支店）で日養鶏家に長期の貸付を行ってゐる。

条件：
 三車以上継続の養鶏家たること
 土地担保（無論登記消滅可）
 貸付期間六年
 利息年七分

便送：
 ヒント購入、飼料、鶏舎、水道（椰友カン等）設備、自家発電、等すべて設備に使うことが出来、必要とあれば住宅を建ててもよい。

貸付方法：
 希望者は土地登記書と持参して銀行のジレンラを訪問し設備に因する自家の計画を述べる。記録記入は先方とする。銀行からアバレアドール（調査人）を派遣して来て、借受人の実態を調べ、地、間違ひなければ正規の書類作成の上貸付される。

注意：
 希望者は一度前以てカーザラホーラにDr.ホリス氏を訪問して親を知らせてもらうておく方がよろしかろうとの事。

2 雑作青田貸 は次の通り

同銀行は農業者の便宜を計り、アメンドイン、ミ、リヨ、米、綿、バナナ、ア等の生産者に、短期貸付をしてゐる。
 1. 貸付期間はフラクタより枚獲サウラ迄
 2. アレゲールとワタチンニアなりは三六コント乃至四五コント
 3. 三七分の割にて利息徴収

3 農具購入貸付

トラクトール 附属品等の購入ができる
 4. ホマール用苗木貸出し

之れは農務局よりカーガネラ、カーラを通じて、ホマール栽植用の苗木を現品で貸与してゐる。

尚、イの養鶏家の場合は金額は明示してないので、計画見積りによつて三百コントになる人もあるらしい。四百コントになる人もあるわけであるが、少額な融資されるより、大変便利だから希望者は計画に対し熱慮の上申込せられるとよい。大きく廻りによると、各産組では可成りの金額を組合員に融資してゐる由だが、かつては組合自体の運営にも支障を来たす原因となるので、之れから事業と打合せんとする人は寧ろ前掲の銀行融資を利用する方が賢明である。銀行融資には返還の義務のみで生産物に担保がないから組合に対して義務を怠るような問題は起らない。筆者は必ずしも農家に借金を御

Lapataria Hayakawa

長カイアには
 小じんまり
 とした
 お靴が
 お上品で
 ございます



早川靴店

誠實と勉強
 ホント前
 浮田金物店

奨めするものではないが、借金の完理のための借金でない限り、それが生産拡大に用いられる軍資金ならば、省みて少しも取つる廻りはない筈である。又借金は個人からするものでない、頭が上りなくなつては困るからであるが、銀行の場合約は些かちがう、誠意を以てサンキキと行の商賣、政府が農業者を保護する一政策である、此を利用してでもらうことは自家の利益であるばかりでなくフラジール自家の利益である。農業はすべからず積極的たれと、もう一度述べると各住の御意見を伺う次第である（赤音）

草 虫
 仙人堂 社 作品
 やり水に草虫胴をちいめせ落つ
 四月 馬鹿
 万愚節 嘘吹きとほし 吹きとほし
 受難節
 哭く如く唄ふ護美歌 受難節
 十字架架く白糸市長受難祭
 復活祭全快祝とは佳き日
 万日セツソンは涼雨かや 受難祭
 鶏益を相談にまじ 受難祭
 ビルに映え聖人は続く 受難節

ハウロ 南季
 秋扇 マリア
 春歩 福花

バストス更生の一考察

カフエホール見学記

2

西 徼 談

最初の視察地をセントラルメイラで大分時間と費し、さんか歩いたのでも若い者でも相当疲れた位です。横さんなと、この老人は、すい分難儀されたことかしらう。あの二年配では、年青年と行を共にし、ことごと自分の耕地で働いていて、青年達によそより耕地を興学させようとして先頭に立って指導される意気には全く頭がさがりました。

次のルヤール耕地へついたのは三時前、先のパルメイラとは反対側、ワッパン市外二キロの郊外です。ここは大金持が道楽半分にもつて、いる耕地で、設備はよく整って、いまは全部はとまかせで、この日も不在でした。時々オの本宅から遊びにくる程度だそうで、

「シロ口(牧草貯蔵場)クイヒ場など物すごく多量ですが、クイヒ場の水まきなどは不注意で、水が外へ流れ出してしまいました。農業技師はこの水は充分肥料分を含んでいるのだから流してはだめだ」と説明し、自分から進んで堆肥の作りかえ、ルヤールがソ(水まき)などやってみせ、クイヒの重要性、必要性を二人と説明しました。最後にアケロノモがバストス農業者の熱心なる見学態度をたたえた挨拶をし、畑中さん横さんの技師に対する謝辞があり、バストスには、幾つかの組合がありました。それそれ農事の指導もして居るが、いかに作りを水は持々にたけるに、バストスというものを中心としたものではない。農事の研究というような仕事を主軸とする。即ちバストスの横貫的なつながり、之れを契機として作ってゆき度いというふうなお話でありました。また日は高いけれど時計は五時、一同再びカミニオンに分乗して帰途につきました。

前回にも申しました様に私は農事については知識はありませんがバストスの農家の方々が咖啡栽培にも目を付けて、進んで見学旅行を思い立ったことはよろこばしい現象と 생각합니다。ことに青年の多かつたのは愉快でした。どうせバストスには咖啡を大々的に行うことは不適当ですが、各自三四本をホルマするよりは多角式農業の一端として是非実現してほしいものと思えます。此後事情のゆるす限り青年団でもこの方面の指導をしてもらい、四HC運動のプロジェクトとして咖啡栽培も悪くないと考えます。御理解と御支援とねがってやみません。(文責東音)

中島バストス産組専務

ワッパンで 奇 福

バストス産組専務中島善治氏に処用の為の出る三月十六日ワッパンに赴き、両市街を横切るとした時、迂って自動車にはねられ全治三週間、わたる負傷を受け、幸いに全癒して四月十六日復り再び勤務出来るようになったが、一時は中々重態であった。幸い打撲傷だったため、不慮に免れた。不幸中の幸と云ふ可きであらう。

御 礼

私 儀

去る三月二十六日処用の為めワッパン市に参り、帰途大雨に會い雨を避けようと待を横切った瞬間折柄疾走して来た自動車にはねられ、打撲傷を負いました。当初さほどの負傷とも思いませんでしたが、内出血の為めワッパン病院に入院するに至り四月十日漸く退院致しました。とんだ災難でしたが皆様に御心配を掛け且つ種々御見舞品など御恩字を受け誠に相済ぬ事です。茲に暑儀乍ら紙上にて取敢ず御礼を申上ります。一九五六年四月十六日

中 島 善 次

各 位

真下先生の治療は

四月末で終いです

真下先生は四月末を以てバストスのトラホーム治療を打ち切ります。外の手術は右の理由でおことわりいたし、トラホームの方だけ、あとしばらく治療いたします。

バ ス ト ス 病 院 通 知

残念ながらアセイタできぬ

農務局よりバストス市会が長
への公文通書

去る二月の市会で(二月九日) 西議員提案
のフレロ及トルタのコツタ増加申請提案
は直ちに公文書として当局へ送られたが
三月亦三日附を以て州農務局配給局長
ヨビカジアーノ・ゴメズ博士・レイス氏名義を以
て左の如き拒否通告に接した。

「貴市会より申請のトルタ及フレロ増加に
就いては、いかん乍ら急速に承諾するお
けに行かない、というの由をモインニヨ
サンチスタ会社の生産が著しく低下し
ている為めである」と五五年度と五六
年度の数字を次の様に挙げてゐる

五五年八月	五九二〇〇・二	(三〇〇〇依)
九月	五六四八七・二	
十月	四七四〇三・五	
十一月	五一四六〇・〇	(五週)
十二月	三二一四二・五	
五六年一月	二四〇二四・二	
二月	三四四〇四・三	

「こがし乍ら最近ニヶ月位の間に生産が
旧に復帰する予定であるから、其の節は
何令り考慮をす」というわけである

四月五日バストス市会

四月五日(木)夜のバストス市会にて大
統領、州統領その他各方面の公文を書記
のよみ上げの文が長い時間を費し、市会
提案も数々あったが、その内主要なる項を
ひらいて見ると

1. バストスの二ジョルナルに年間約
九千六百クルセルの交給する件
2. 州政府に申請してタクニコを派遣し
て賞状、バストス農業者の子孫に
トランドール操縦の技術を講習せしむ
り、前市長はベレアドールであるこ
が理市へ移転し、市会を欠席するこ
と六十日を越えて居るので退任せし
む可しと市会の決議を以て通告する
こととなつた
3. その代理後任としてアルワール、元
トルタと招集することとなつた。

サンチスタ配合飼料とは?

全期間のトリに対して、蛋白質の完全飼料として
おすすめてさるより、動物性蛋白質と植
物性蛋白質の配合、燐とカルシウムの合
の比率に完全を期すると共に、最も必要と
する鉱物質並に諸種ビタミン類を豊富
に含有して居ります。(広告)

RAÇÃO SANTISTA

AGENTE
(K. Ura)

Desintoxicação de Malho
BASTOS H. KAMIGASHIMA
Bastos C. P.



金の卵

を産む鶏

サンチスタの完全
配合飼料を

一度だけ
試みて

使つて見て
下さいませんか?

粒と粉の
ニタ通り

一粒一粒に完全な
配合が出来てゐる

それが大サンチスタの誇りであり
名に賭けての責任です

バストスの代理店では本社直接と
同値で扱います

サンチスタ配合飼料代理店
上ヶ島製粉工場

聯青主催 辯論大会(三月廿五日)

三等

同胞よ日本語を子孫に伝へよ
サウチスタ 何藤しゆ子

私達の日常使用致しおす言葉が今日の
それほど進展して参りますには数千年或
はそれと長い、星霜を耐した事ごご
いませう。其の間その時代々々の民族
の感情とか夢が、或は悲惨な種族間の闘
争とか、日々の生活の中にせまられ、次
々と進化發達して来たものでございまし
て、敢て申しますなら私達の今日の言葉
は民族の長い歴史の集積であるとも申せ
るのではございませうまいか。私の日本語
には太古の昔からの大和民族の、英語に
はイギリス人の、アラビア語にはホルト
ガル人や此の國の土人の遠い先祖からの
血と歴史が織り込まれて居るものと私は
考へるものでございませう。

此の様に考えます時、私達が常日頃何
の気なしに使用して居る言葉も一言一句
おろそかにする事の出来な、真に尊いも
のと申さなくてはなりません。言葉は言
霊なりとか申しますが、實に至言なりと

言はなければなりません。ところが此の
尊かる可き私達の日本語が戦後次第に同
胞の間から日々その影のうすれ行くを眺
め、日系人として此の世に生を育けた私
は心底大きな淋さと民族的悲哀の胸中に
溢れるものを如何とも致すことが出来な
いのでございませう。

皆さん！過去の歴史をひるがえって眺
め、才時、たとえは私達の先祖が遠く南
洋や佛印に大発展をした時代がございま
す。彼の山田長政の如く遂にはラゴール
の王とまでなりました。それが今日そ
の人達の子孫がどのようなに育つてい
るか申すに過ぎない。然るにその様を事
実が
あつたことすら識別出来ないうまに
一沫の痕跡すら止めず、唯史書の一隅に
その由を識り得るに過ぎないのござい
ます。然らば何故このようにけかない
辰に終つたかと申しますと、それには色
々な事情も御座います。中に一点今日の
私達にとり、以て教訓とするに足るもの
がございませう。それは彼等が移住地の風習
を取り入れるに急にして、己が母国の言
語をおろそかにし、之を子孫に伝えなかつ
たと言ふ事は覆うことのできない事實で
ございませう。この様な昔の事はさておき
例を卑近な此の國に在住するドイツ人と
とりまします時、民族にとり各々の種族の
言葉が如何程大切なるものであるかと言
うことが知られるのでございませう。

皆さん！御承知の通りサンタカタリーナ
リオのラントドスレルの両州にはドイツ系
の人達が数多く住み、今日では既に三世
はあつたか四世五世の多くが居るようござ
います。彼等はドイツ系スラヴ人とし
てありゆる職域を通じて州の重要な地位
を占め、以て此の國に偉大な貢献をして
居ると申します。が尚ほ五世の人達に
して一人のドイツ語をわきまを置かざる者
なく、その言葉を通じて自ら祖國の知識文
化の吸収に勉めつつあるやうでございま
す。此の様に彼らの発展の原動力が母國
の言葉を源とするケルマン精神の発揚に
起因致し、するに反し、之と同じ血に
ながらドイツ人の子孫でサンタカタリー
ナの奥に住む人々を眺め、余り時、此れが果
してあの優秀な民族の子孫であらうかと
見る者をして奇異の眼を見張らしめるそ
うなございませう。目には一丁字すらなく
まいて祖國の言語など片言隻語も通じな
いと申します。彼れ着切にけだし、他國
人のもとに仕事をあせり、細々と日を送
つて居る由、一つは己が祖先の血とも申
すべき母國語を武器として降々発展し、他
は之を放棄したことに由りて落ちぶれ、
今日、悲惨なる境遇を招く。

世の上にも必要欠くことのできない
大なるものでございませう。皆さん以上求
べました例は今日の私共にとつて、以て他
山の石とするに足るものでございませう。
まいか、皆さん！此の大なる日本語、私達
社会が次第に忘れられようとして居り
ます。何と言ふ由々しい問題ではござい
ませうか？

特に私達、女は将来母性として子女の
訓育を双肩に荷わなくしてはなりません。
今日に於て私達が日本語の習得をおろそ
かにして、おいて、時刻いつて誰か又この私
共の血とも申す可き祖國の言葉を己が子
孫に伝え得ようか！
かつて私はマリリアの街頭を一日系女
性に日本語で道を尋ねたことがございま
す。処がその人は日本語が通じず、
「スラヴ語によつて用事を達した次第で
した。」「あ、此の人も日本人の子だらう
か？」と哀憐の情と共に彼女をかくあらし
めた御両親の御顔が見たいものと思つた
事でした。私はその時の氣持を過日録者
の感想発表会席上で申述べた事でしたが
今日戦後始のこの青年討論大会を催され
るに際し、まして此の企てが日頃私の切願
たる日本語習得の上に如何に大きな刺戟
となるかを考えますと、さき一人黙視する能
はず、菲才をも者みず此の壇をけがし、
更に声を大にして「在伯同胞よ日本語を
子孫に伝へよ」と提唱して止まないもの
でございませう。(了)

I. NOZAWA



三ーリヨの
デブーリア賃値下げ
三ーリヨが少し安くなりましたので
私方のデブーリア賃も少々格下げ
一俵十二針と致します

三ーリヨ大豊作
養鶏家各位へ
サーワイス
の為の、晝夜日曜、いっでも
出張いたします

野澤一衛
仕事が早く、よく働く当店へ
三ーリヨ脱粒 御まかせ下さい！
フロリム、パイ、ショット街(古沢三ノ下隣)

Sabão ALBAT ROZ
Lava Melhor



よごれのヨクあちる
手のアレない サボン
アルバト
ローズ
を、おつかい下さい
バストスの
有名商店に
あります

一週放言 (いいたいことを云ふ欄)

いいたいことを言わせずには押さるるど、
名前が内証する故、ここで云いなきが、
して下さい。

○カフエーは時代おくれ

西君がカフエーの宣伝してゐるって！君今
国際市場でブラジルの珈琲がどんな位置
に立っているか知ってんの？
○僕ア宜依な人がしてないぞ、自家努力
でニ本植えてはどうかすかという程
度だ、永年作物を考へるのは農家の常識だ
口ブラジル珈琲は質が悪くて高価なんだ
英國はエジプトはスエズ地帯、米國はメキ
シコその他の中東を本拠地として珈琲を
とん／＼植えてきて、伯國珈琲の向うを攻
つてゐる。それか来々あたりのラフラ
に入ると、労賃は伯國の三分の一採集
法は赤い実だけ手でつみとって、その上
燥すんだ。いわゆる上物が安く出来て
る。自分が投資してゐるから入用だけ
分の所から買ひ不足を来々あたりの伯國
珈琲生産過剰でとつと値下りかくるから
○珈琲専門の者は痛いかも知れんが、ニ本
や三本木の珈琲では心酔いらんよ！
口／＼かしの珈琲の在り方は知らな
いかんと思ふな、ブラジルの居てブラジ
ルの悪口を言ふわけにはいかんが、珈琲と
いふと、棉花といふ主要産物でありながら
國際的にいつて輸出のハケ口に絶対自信
がないとすると、貿易は片貿易で輸入超過
となり、赤字(インフレ)に拍車がか
り、我々の生活はあつたか？
○それじゃ、君どうしろと云ふのか？
百六で教員、國際貿易の対策を研究せね
ば百姓でけんようでは、あしたからでも
○「霜害のない食料品の作物をとれる
よ」の方がいいな、カフエーは時代おくれ
下段へ

○記名投票

又中学校問題で投票が来た。
○「緒方時雄らしい。先日坂本氏が中
校舎増設問題で意見を述べたが、何
が、なききたいといつた。だが、何
がある」
△「さう見給え」
△「きのふ雨の降る時窓をしめ忘れ
が降りこんで、紙をメチャク
て読めないうだ。横田さんがホ
レまうて、。横田さんや後藤さん
は自分らの力をかけて、簡単な
いさまいだが、その簡単な中
らう、賛否をきめるのに、記名投票
やることになつた。記名投票とい
合人をくたつた。話だ、一種の悲
いかと思ふ。何故なら、その日の生
も追われる者が、教団に委すこと
し、たの何十コトを出せと言はれ
頭を、さかぬは、残念なり、しり
るの、当然だ、残念なり、しり
らぬ、涙を、このから判らん、の
る、だ、う、二教室建て、た、
新学期、二教室建て、た、
事、閉鎖できるものでも、ある
教団に委して、し、た、本、さ
い、が、レン、が、一枚、連、だ、形、
は、ない、か、あ、の、言、葉、は、山、中、
さん、に、た、の、ま、れ、て、言、つ、た、
坊、さ、ま、の、委、任、状、山、中、さ、ん、
の、を、見、た、こ、と、が、あ、り、す、か、
△「よくよめ、る、じ、や、ない、か、
△「それ、から、こ、の、と、ろ、が、
ん、だ、が、ど、う、し、て、よ、め、ん、日、
に、本、田、さ、ん、失、言、頭、が、よ、い、
△「いや、どうも、これ、は、雨、に、
△「新、学、期、迫、り、二、三、室、云、々、
今、か、り、考、え、る、と、云、た、と、す、
は、失、言、だ、ね、」

NOSSA RELOJOARIA

Optica: Para o conforto e saude
de seus olhos, faça seu
Oculo na N. Relojoaria



醫師の處 法による
ごんを眼鏡 ぐと調製す
めがね 時計 指輪 貴金 偽
のお求めは、ソバン第一の
ジュッサ・トケイ・テン
へおでかけください
TUPA
AV. TAMOIOS, 785 FONE 1234

⑦ 生長の家 教主谷口清超先生バストスに巡錫せらる
 教団本部

昭和五年三月生長の家発祥以来四半世紀今やその教勢は全世界に拡大され、警異的大発展を遂げつつあり、曩に英国宗教家の第一人者パスピ氏は「六名の指導者と協力し人類を苦惱から救い霊的一致に導けし」との神の啓示によって世界の勝れた霊的指導者と協力し國際的宗教協調運動の尖端を切りや、我日本にあっては吾々の導師谷口雅春^{先生}の協力加入の依頼があり、教主先生はこれを受諾遊されて直ちに論文を送られ其の機関紙「聲」誌にインドのネール首相の論文と並んで寫真と共に掲載されるに至りました。

生長の家は今や世界の生長の家となり、民族国家宗教を超えた文字通の人類光明化運動に逞ましい足跡を印しつつある事は眞に御同慶の至りでございませぬ。扱てブラジルに於きましては昭和二十六年七月聖市にブラジル總支部が創立せられ、幹部及び誌友の一致協力により、素晴らしい發展を來たしました。越えて昭和二十七年七月には、徳久本部講師の御來伯を仰ぎ、全伯に光明の巨火を点せらるるや、潮の如く讃仰の声高まり、ブラジル光明史に一新紀元を画して今日に到りました。其の間教主先生を御迎え申上り度いとの声澎湃として全伯に高まり幹部諸氏により再三教主先生御渡伯を懇請中の処、教主先生の御代理として教主先生、並びに隨行員として徳久青本部長の御來伯が決定御認可を賜わり、來る七月一日より九月二日迄の御日程で全伯に大光明が英せられる事となりました。○當バストスは七月三十一日に御巡錫の予定となりましたので、此の秋^{あき}びを予告いたす次第であります。

神の榮光燦然としてバストスに輝く

人類在來の宗教観念を根本的に覆滅し、シヤカ・キリスト、日本古神道の一致せる根本眞理を、最も平明に解説し、人類生存の基本理念を説破教導せる者、即ち谷口雅春導師の靈告神示であります。眞理の発揚する処、治病的^{びやくてき}に或は事業の發展に奇蹟の顯現せられるは益し宜^よなるかなと云う可きであります。しよう。今や神のラッパとして聖なる使命に活躍中の在伯諸講師は一堂に會して其の榮光を傳えんとす。

○病める者、悩める者、苦しめる者よ
 ○活社會に勇飛活躍せんとする青年男女諸士よ
 来て聴け！神の雄叫びを、而して受けよ。平和と愛と無限の發展を

○生長の家バストス練成會開催
 期日 五月十八、十九、二十の三日間 申込所 梶田商店
 会場 一線會館 水口商店
 會費 食費共三日間、二百針、二日間百三十針
 一日七十針、二人の場合三百八十針也
 主催 生長の家バストス誌友相愛會

バストスのほんかんは

ニセモノかホンものか

日伯毎日新聞四月七日発行記事
ほんかんに対する異論に答えて

畑 中 仙 次 郎

一九二九年六月バストス移住地第一回
植民者初哥山果人桑原竹次郎氏が果農
試験場より二本の純系高橋ほんかん苗木を
譲り受けて持参したものが一本は枯死
し残りの一本の苗木から爾来今日迄廿七
年間、廣く聖州内に分布移植せられたも
のであるが、遺憾なり今日当地に於て原
産地台湾産のホンカンと当地のものとの
実物によつて比較研究するよすががない
。然し前述の経緯を尋入せられたもので
あるから和哥山果人試験場のほんかん原
木がもしホンカンであるならば当地産の
物もホンカンであるとして決定してはか
る。此はなからう。日本に於けるほんかんの
栽培は比較的丁度よく大正末期から本
格的に始まったと言ふから、暖地蜜柑の
本場和哥山果に於ても、ほんかんの純系
ものを取入れ植栽ある研究が進められて
居った事と思ふ。元来ほんかんは環境や
手入れに依つて良くも悪くもなる事
は免れ得ない現象であらうから、台湾の
ものと日本のもので或は此米のものとを
仔細に研究するなら幾分の相違点が見出
せるのも当然の事と思ふ。一口にほんか
んと申しても果実が大きく果皮がやや粗
い酸味が少く而も早熟性で商品価値の
一番高い高橋系と果皮の比較、薄皮果実
も少なくて酸味の多い低橋系と果皮が
低い果実の大きい果皮の粗い大型でも
商品価値は高橋系に較べると劣るものと
の三種に分れる。元来ほんかんは系統分
離が未だ確立して居ないものではない、斯
るが故に個体差が大きく乳頭が著しく突
出して果型の不揃いのもの又は果皮の甚
しく粗いもの又は肉質の固いものなど形
質の不良な個体が少なくないので栽植に際
しては優良個体(母樹)から養生した規格
に準じたる良心的苗木を選ぶことが大切で
あると専門家は云う。尚優良果実は熟葉
が非常に軟かく固形物量三三―一四%酸
分の五%くらいで風味は甚だよい。大き
さは一七〇―二〇〇ミリの普通で、三〇
ミリ以上のものも出来るが餘り大い物は肉
質が固く品質が良くないと言ふが大體日
本のほんかんであるから、之れを標準に
当地産のものと比較すれば凡そその優劣
が判るであらう。本年は気候の関係上特
に熟期が早くそろく成熟して来たから
良く調べて見ると高橋、低橋大形及小型

の三つに区別する事ができる。又圓形物
量酸味共々日本産とやや似て居るよう
に思ふ。唯大さは普通二〇〇―二五〇ミ
リ大玉になると四〇〇ミリにも達するものが
あるから日本物とは可也大きく又古木の
ものは大きい程味が良い点が變つて居る
。之に思はれる。

元来印度北部の原産で中國南部及台湾
で主要種になり、現在日本にある物は明
治年間台湾から入つたが、栽培の始ま
つたのは大正末期であると言ふ。主とし
て鹿児島県を中心として高知、宮崎、熊本、和哥山
県などの暖地で栽培せられて居る。其の
内でも鹿児島県南端の屋久島から最優良
品を産するが、其の理由は年平均温度一
八度が高橋系ほんかんの経済的栽培の限
界とされ居るが、屋久島の年平均温度は
二〇度で亜熱帯果実ほんかんに必要なる
温度に近いからである。然るに鹿児島
にある重木柑橘試験場(年平均温度十九
度)に於ては僅か一度の差で熟期が十日
も遅れ風味も一段落ちるといふからサン
パウロ州内に於ても同様な現象が現われ
る事は申すまでもない。即ち積算温度二二
―二三度ほんかんの原産地台湾とや同
じ様子、気温の状態に置かれて居るバス
トス地方とサンパウロ近郊の清涼(積算
温度一九度位)なる地方とでは自ら熟期
も異り風味の点に於ても格段の相異があ
る筈であるから同じほんかん種でも大き
な開きのある事は免れ得ない。従つてバ
ストス地方産のホンカンと六年前にバス
トスより移植せられた内田氏のモジ産の
物(原木は当地山中氏の果樹園とあり)
とは如何に同系のホンカンと異も熟期に
一ヶ月のズレがあり、品質風味共々劣る
事は自然の法則である。

当州ほんかんに異端を唱える農業技師
が何によつて異論の根拠を求め、何処の
ほんかんを標準にしたのか(或はモジ地方
のほんかんを以て代表的のものとして見做し
て居るに非ずや)未だ不幸にして知る由
もないが兎や角論議探討するも大に結構

日本製 ミシン

トヨシ印 二台 新品
都合により格安、ゆつり度し

前山商店

御希望の方は、
実物ごらん下さい

であるが、本年五月日本より純系高産種
 んかんの優良種苗が当州のニヶ所（或は
 る以上）導入せられた事は事実である
 から数年なりが期せずして其の結果が明
 かに現われる事である。素より日本の
 果樹園芸界も年々改良せられて居るから
 二十七年前のものより優秀であるかも知
 れぬ。然し現在当州の優秀種かんは樹
 は旺盛で何処でも育ち、又頗る豊産且つ
 風味の点に於ても特得の味があるので、決して
 他の蜜柑に劣らない優秀品であるから、
 その本家争いは他日に譲り、先づ適地に
 大いに之を栽培して一日も早く大衆化し
 ほんかんの持つ高尚なる風味を全然知ら
 ないサンパウロやリオの大方の人達に大
 いに賞賛して貰うてはならないか。
 （註）この原稿は不日、日伯紙に送り
 ボンカン発生の由来を明かにしたい
 と思つてゐる、畑中生）

吾々になじみ深い

ブラジルの薬草

(四) センホリ(日本名) 生薬当薬

龍膽科 Gentianaceae

学名 *Swertia japonica*, Makino

ムラサキセンホリ *Swertia chinensis* Hems. et Sata

語源 センホリとは千振り、千回ふり出
 しても尚にがいところから出てゐる方言

苦草 よんで字の如しである

九州秋田宮城茨城地方の山間部より良
 品を出す。近畿地方ではやや高山高泉地
 方に、日本中列る処に自生する。花時全
 草をとり乾したものがその本来日本産方
 薬として使はれてゐる。

食すき 下痢、消化不良、胃カタル、
 ハライタ、心臓病は乾したものを五日六日
 を浸出し一日三回食前にのむ。月経困難
 やコレルけには煎じ出し風呂に入れて温ま
 るとよい。当地の薬商は二にむもあるの

賣シヤーカーラ

場所 シヤーカーラとしては一流目扱
 市街地より五百メートル

面積 十アルケール 理想的な農園
 ができます

おのそみのお方は左記之御問合せ
 スロリアノ
 レイテイロ 前 田

であり上げて見ました。
 ○成分 スグルチン、アムリン、當薬酸、ケシチン、
 スグルチン、ゲン等を含む。右方に健胃散が
 あるが重炭酸ソーダ二五〇。当薬末一〇。
 をませたもの。右方健胃錠は之を錠剤と
 したものである。
 センホリの主成分 スグルチン、アムリンは
 苦味性の健胃醣糖である。こゝういう苦味
 性の。健胃醣糖体も植物
 を異にするところが来る
 龍膽リンドウ カンケオヒプリン
 睡菜葉 ミツガシラ メリアチン
 橙皮 アイヌヒ アウロンチン、ヘスヘリチン
 苦木 シガキ カツシイロ
 ホツア フロリン、レフロリン
 延命草 ヒキヨシ フレフトランチン
 陳皮 ミカンカク ハスベリジン
 黄蓮 サメギヤク、ヘルベリン
 上述のベルベリンは目薬にも用います。メ
 キは目にさく処から目木が諸病となつた
 以上の成分はそれ（急性胃腸カタル、消
 化不良、胃無力症、胃下垂、胃拡張、胃酸多過、慢
 性下痢等々に用いられます。
 陳皮は芳香性健胃薬ですが、芳香性健胃
 薬として、用いられる薬用植物には桂皮、サ
 フラン、肉桂、山椒、茴香等々）等もありませ
 ぬ。
 （本稿未完）

筆者 ウニョス 小野山薬行老です
 (係) 今回は紙面の都合で、一稿を中途で
 切るようなへまをせりました。だが次回
 への合せます。皆さん薬草学は何
 かと役に立ちますから、御愛読下さい

高血圧と中風予防に

かきしぶ (作ためしあれ)

アルト区 西 柿園 (見本運社)

御しらせ

来る廿四日(火)ホリネス教会で
 車田秋次先生 (日本からの先生)の
 福音講演演會 が催されます

福音講演演會

人の魂をうつお話し
 時間は夜八時 皆様でかけ下さい

御しらせ

本誌第十頁にのせた菊文は「センホリ」
 ア」と云う少年少女向きの小説で一読の価
 値あるもので、どうも御定の子供さん
 方に、よませ、そしてパイやママイトエス
 スリカするようにして下さい。自然日本
 語の勉強にもなりますよう (係)

少年少女 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 100, 101, 102, 103, 104, 105, 106, 107, 108, 109, 110, 111, 112, 113, 114, 115, 116, 117, 118, 119, 120, 121, 122, 123, 124, 125, 126, 127, 128, 129, 130, 131, 132, 133, 134, 135, 136, 137, 138, 139, 140, 141, 142, 143, 144, 145, 146, 147, 148, 149, 150, 151, 152, 153, 154, 155, 156, 157, 158, 159, 160, 161, 162, 163, 164, 165, 166, 167, 168, 169, 170, 171, 172, 173, 174, 175, 176, 177, 178, 179, 180, 181, 182, 183, 184, 185, 186, 187, 188, 189, 190, 191, 192, 193, 194, 195, 196, 197, 198, 199, 200, 201, 202, 203, 204, 205, 206, 207, 208, 209, 210, 211, 212, 213, 214, 215, 216, 217, 218, 219, 220, 221, 222, 223, 224, 225, 226, 227, 228, 229, 230, 231, 232, 233, 234, 235, 236, 237, 238, 239, 240, 241, 242, 243, 244, 245, 246, 247, 248, 249, 250, 251, 252, 253, 254, 255, 256, 257, 258, 259, 260, 261, 262, 263, 264, 265, 266, 267, 268, 269, 270, 271, 272, 273, 274, 275, 276, 277, 278, 279, 280, 281, 282, 283, 284, 285, 286, 287, 288, 289, 290, 291, 292, 293, 294, 295, 296, 297, 298, 299, 300, 301, 302, 303, 304, 305, 306, 307, 308, 309, 310, 311, 312, 313, 314, 315, 316, 317, 318, 319, 320, 321, 322, 323, 324, 325, 326, 327, 328, 329, 330, 331, 332, 333, 334, 335, 336, 337, 338, 339, 340, 341, 342, 343, 344, 345, 346, 347, 348, 349, 350, 351, 352, 353, 354, 355, 356, 357, 358, 359, 360, 361, 362, 363, 364, 365, 366, 367, 368, 369, 370, 371, 372, 373, 374, 375, 376, 377, 378, 379, 380, 381, 382, 383, 384, 385, 386, 387, 388, 389, 390, 391, 392, 393, 394, 395, 396, 397, 398, 399, 400, 401, 402, 403, 404, 405, 406, 407, 408, 409, 410, 411, 412, 413, 414, 415, 416, 417, 418, 419, 420, 421, 422, 423, 424, 425, 426, 427, 428, 429, 430, 431, 432, 433, 434, 435, 436, 437, 438, 439, 440, 441, 442, 443, 444, 445, 446, 447, 448, 449, 450, 451, 452, 453, 454, 455, 456, 457, 458, 459, 460, 461, 462, 463, 464, 465, 466, 467, 468, 469, 470, 471, 472, 473, 474, 475, 476, 477, 478, 479, 480, 481, 482, 483, 484, 485, 486, 487, 488, 489, 490, 491, 492, 493, 494, 495, 496, 497, 498, 499, 500, 501, 502, 503, 504, 505, 506, 507, 508, 509, 510, 511, 512, 513, 514, 515, 516, 517, 518, 519, 520, 521, 522, 523, 524, 525, 526, 527, 528, 529, 530, 531, 532, 533, 534, 535, 536, 537, 538, 539, 540, 541, 542, 543, 544, 545, 546, 547, 548, 549, 550, 551, 552, 553, 554, 555, 556, 557, 558, 559, 560, 561, 562, 563, 564, 565, 566, 567, 568, 569, 570, 571, 572, 573, 574, 575, 576, 577, 578, 579, 580, 581, 582, 583, 584, 585, 586, 587, 588, 589, 590, 591, 592, 593, 594, 595, 596, 597, 598, 599, 600, 601, 602, 603, 604, 605, 606, 607, 608, 609, 610, 611, 612, 613, 614, 615, 616, 617, 618, 619, 620, 621, 622, 623, 624, 625, 626, 627, 628, 629, 630, 631, 632, 633, 634, 635, 636, 637, 638, 639, 640, 641, 642, 643, 644, 645, 646, 647, 648, 649, 650, 651, 652, 653, 654, 655, 656, 657, 658, 659, 660, 661, 662, 663, 664, 665, 666, 667, 668, 669, 670, 671, 672, 673, 674, 675, 676, 677, 678, 679, 680, 681, 682, 683, 684, 685, 686, 687, 688, 689, 690, 691, 692, 693, 694, 695, 696, 697, 698, 699, 700, 701, 702, 703, 704, 705, 706, 707, 708, 709, 710, 711, 712, 713, 714, 715, 716, 717, 718, 719, 720, 721, 722, 723, 724, 725, 726, 727, 728, 729, 730, 731, 732, 733, 734, 735, 736, 737, 738, 739, 740, 741, 742, 743, 744, 745, 746, 747, 748, 749, 750, 751, 752, 753, 754, 755, 756, 757, 758, 759, 760, 761, 762, 763, 764, 765, 766, 767, 768, 769, 770, 771, 772, 773, 774, 775, 776, 777, 778, 779, 780, 781, 782, 783, 784, 785, 786, 787, 788, 789, 790, 791, 792, 793, 794, 795, 796, 797, 798, 799, 800, 801, 802, 803, 804, 805, 806, 807, 808, 809, 810, 811, 812, 813, 814, 815, 816, 817, 818, 819, 820, 821, 822, 823, 824, 825, 826, 827, 828, 829, 830, 831, 832, 833, 834, 835, 836, 837, 838, 839, 840, 841, 842, 843, 844, 845, 846, 847, 848, 849, 850, 851, 852, 853, 854, 855, 856, 857, 858, 859, 860, 861, 862, 863, 864, 865, 866, 867, 868, 869, 870, 871, 872, 873, 874, 875, 876, 877, 878, 879, 880, 881, 882, 883, 884, 885, 886, 887, 888, 889, 890, 891, 892, 893, 894, 895, 896, 897, 898, 899, 900, 901, 902, 903, 904, 905, 906, 907, 908, 909, 910, 911, 912, 913, 914, 915, 916, 917, 918, 919, 920, 921, 922, 923, 924, 925, 926, 927, 928, 929, 930, 931, 932, 933, 934, 935, 936, 937, 938, 939, 940, 941, 942, 943, 944, 945, 946, 947, 948, 949, 950, 951, 952, 953, 954, 955, 956, 957, 958, 959, 960, 961, 962, 963, 964, 965, 966, 967, 968, 969, 970, 971, 972, 973, 974, 975, 976, 977, 978, 979, 980, 981, 982, 983, 984, 985, 986, 987, 988, 989, 990, 991, 992, 993, 994, 995, 996, 997, 998, 999, 1000.

家なき児

イルトルマロフ作

S E M F A M I L I A

Por Hector Malot

(no 1)

Eu sou enfeitado.

Mas até aos oito anos julguei, como as outras crianças, que tinha mãe, porque, quando eu chorava, havia uma mulher que me apertava com tanta ternura nos braços e me embalava, com tanto carinho, que as lágrimas se me secavam nas faces.

Nunca me deitava na cama sem que essa mulher me viesse beijar, e quando o vento de Dezembro batia nos vidros cobertos de neve, ela pegava-me nos pés com ambas as mãos e ficava a aquecer-mos enquanto me cantava uma cantiga de que eu conservo ainda na memoria a musica e algumas palavras.

Quando eu levava a nossa vaca a pastar por atalhos cheios de herva ou pelas charnecas, se por acaso a chuva me surpreendia, vinha ela ter comigo e obrigava-me a meter-me debaixo da saia de lã, que levava e com que me cobria a cabeça e os ombros.

Enfim, quando eu tinha uma questão com algum dos meus camaradas, fazia-me contar-lhe os meus desgostos, e quasi sempre tinha palavras boas para me consolar ou para me dar razão.

Por tudo isto e ainda por muitas coisas mais, pela maneira que tinha de me falar, de olhar para mim, pelas suas caricias, pela bondade que me mostrava mesmo aos seus ralhos, eu julgava que ela era minha mãe.

Até aos oito anos, nunca tinha visto um homem naquela casa: tudo minha mãe não era vivua, mas o marido, que era canteiro, como uma grande parte de trabalhadores do sitio, trabalhava em Paris, e não tinha voltado á terra desde que eu tinha idade de vêr e compreender o que me rodeava. De tempos de a tempos, é que ele mandava algumas noticias por qualquer dos seus colegas que voltava para a aldeia.

- Tia Barberin, o seu marido passa bem; encarregou-me de lhe dizer que o trabalho caminha, e de lhe entregar este dinheiro: quer comtá-lo?

E pronto. A senhora Barberin contentava-se com estas noticias; o seu marido estava bom de saúde; o trabalho rendia; ele estava ganhando a vida.

Não se imagine que a causa de Barberin ter ficado tanto tempo em Paris fosse o estar em más relações com a mulher. A questão de desacordo não tinha nada com esta ausencia. Ele estava em Paris porque o trá balhoal o detinha; quando fosse velho então voltaria para o pé da sua velha companhia, e com o dinheiro que tivesse podido juntar estariam ao abrigo da miseria para o tempo em que a idade lhes tivesse tirado as forças.

Um dia de Novembro, ao anoitecer, um homem, que eu não conhecia, parou defronte da nossa cancela. Eu estava á porta da casa ocupado em partir um molho de cavacos. Sem empurrar a cancela, mas olhando para mim por cima dela, o homem perguntou-me se não era ali que morava a senhora Barberin.

(continua)